

あとから来る者のために
坂村 真良

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
ああから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分ができる
なにかをしてゆくののだ

第23回通常総会出席者対象特別講演会

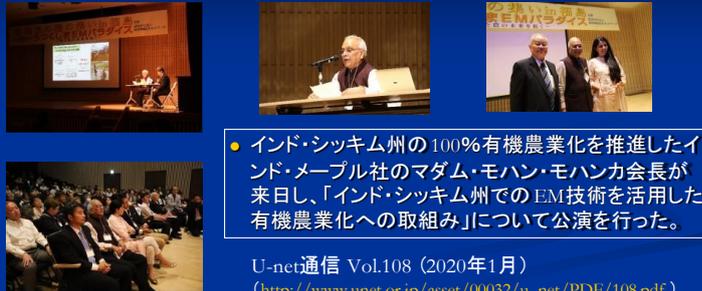
3月4日に第23回通常総会出席者対象特別講演会がオンラインで開催されました。今回、6人の方に発表頂きましたので、発表の要旨をご紹介します。

「福島の有機農業県化にむけての活動について」

EM研究機構 奥本 秀一氏

U-net 通信2019年1月号にて、比嘉理事長は「EM技術による福島の復興支援」の目標として、インドのシッキム州を超える世界的なモデル作りを進めることを宣言されました。インドのシッキム州は、世界で初めて完全有機農業州化を達成し、2018年に国連食糧農業機関から表彰されましたが、同州ではEM技術を公式に採用しています。そして、2019年11月に郡山市にてU-netが開催した第9回東日本大震災復興支援環境フォーラムでは、同州の有機農業化に貢献したインド・メープル・オルガテック社のモハンカ会長より「シッキム州でのEMを活用した有機農業化への取り組み」について講演を頂きました。また、同時期に、県内での有機農業の普及のため、EM研究機構でも大小様々な団体を対象にEM勉強会を行いました。

第9回東日本大震災復興支援環境フォーラム
うつくしまEMパラダイス(2019年10月5日、郡山市)



- インド・シッキム州の100%有機農業化を推進したインド・メープル社のマダム・モハン・モハンカ会長が来日し、「インド・シッキム州でのEM技術を活用した有機農業化への取り組み」について公演を行った。

U-net通信 Vol.108 (2020年1月)
http://www.unet.or.jp/asset/00032/u_net/PDF/108.pdf

その団体の一つである、NPO法人りょうぜん里山がっこう様が熱心に活動をされていますのでご紹介したいと思います。りょうぜん里山がっこうは、伊達市霊山町の美しい山間に在り、「だれでも先生、だれもが生徒」という理念を掲げ、廃校になった中学校校舎を活用し2000年に設立されました。ここを拠点に様々な事業活動をおこなっており、その一つが、大石3ちゃん倶楽部の活動です。霊山町大石地区の60～80歳代の“じいちゃん”、“ばあちゃん”、“かあちゃん”の3ちゃんを中心となり、自分の畑で野菜を少量多品目栽培し、量販店の産直コーナーやマルシェ等にて販売する活動を行っています。持続可能な地域づ

NPO法人りょうぜん里山がっこう



「だれでも先生、だれもが生徒」
世代を越えて、みんなが元気に支えあう
活動の拠点づくり

- 平成12年、廃校になった中学校校舎を活用し、りょうぜん里山がっこうを創立
- 平成19年、NPO法人格を取得、現在、様々な事業活動を実施

廃校活用の体験交流施設

<https://date-satoyama.com/>

くりや自分たちの農地を守るためには、農薬や化学肥料に頼らない土づくりが必要と、EM研究機構の協力の下、2019年7月より土づくり講習会を開始、月1回のペースで現在も継続しています。また、2020年1月末に、EM活性液の培養装置（1000L）が導入され、講習会に合わせてEM活性液の配布が行われています。さらに、2021年9月には市の助成でEMボカシ製造ハウスを設置しました。これにより、2022年度は本格的にボカシ肥の利用が開始されます。活動の成果は着実に現れており、2020年度は野菜等の販売で2,000万円の売上を達成する事ができました。大石3ちゃん倶楽部では今後の目標として、①土づくり（EMボカシ肥）を日常化し、EM活性液散布で美味しい野菜を増産し、②持続可能な環境をつくり、健康で元気な人生をみんなで紡いでいき、③生産と販売を強め、自立した仕組みを作っていくことを目指しています。



「令和3年度活動報告より：一次産業3事例のご紹介」

U-net 芝 幸一郎 理事

一例目は岩本農園さん（兵庫県稲美町）で実施した水田のコナギ抑制です。技術的には北陸EM普及協会さんが確立した手法で、その概要はEM研究所さんのホームページで閲覧することができます。「EM」、「コナギ抑制」というワードで検索するとトップに表示されますので、詳しくはこちらのホームページをご参照ください。

かいつまんで要点を説明します。まず水田で発生する主だった雑草ですが、これらは野放図に生えてくるのではなく、雑草の品種ごとに適した生息環境があり、その一つが肥沃度による棲み分けです。

右図のように田の栄養状態により発生する雑草が異なってくるわけですが、水稻にとって適正な栄養条件が整った際に優先する雑草がコナギになります。

またコナギは、未熟有機物の多い還元的な土壤で発生しやすいので、秋に稲わらを戻す際にしっかりとEMを施用し分解を促すことが基本対策となります。

次にコナギの生理として、水温が25℃以上になると発芽率が80%以上となり、EM活性液を施用すると更に発芽が促進されるということが確認されてい

水稻生育に適した土の状態とその雑草

痩土 速効性養分 腐植不足 酸化型土壤 タイヌビエ	酸化的還元型 ホタルイ	適性土 養分適当 稲ワラ未熟 トロ土不足 コナギ	養分過剰 オモダカ	肥沃土 緩効性養分 利用不可腐植 還元型土壤 クログワイ
地表の保肥力不足 養分不足 マツバイ 小型輪形葉雑草				

コナギが優占したら、より稲が健全に生育する栽培を完成させる

ます。この性質を逆手にとり、入水後にEM活性液を投入し、田の水温が25℃以上になったことを確認したら、コナギが旺盛に発芽してきますので、ここで浅代掻きを行いコナギを物理的に除去します。この作業で水田の土壌表層に潜む大部分のコナギを除去できるというわけです。なお、このコナギ対策を実施する際は深水管理にします。

入水から代掻き、田植えと上記の手順通り作業したところ、例年田植えから一週間後にはコナギが発生していたのに対し、昨年はコナギを見ることがほとんどありませんでした。田植えから一ヶ月後にはところどころコナギが確認されましたが、この時点では稲の草勢が強く少々のコナギは無視しても良いレベルで、最終的に収穫までの間、除草時間ゼロを実現することができました。

除草機を使うと水稻の根を傷つけてしまうので、稲の生育面でもこのコナギ抑制は有意義な技術といえます。

二例目に紹介するのは、徳島県勝浦町という中山間地帯で農産事業を営む株式会社トラストさんです。トラストさんは耕作面積8町、そのうち有機JASを取得している農地が1.6町あり、主要产品目はリーフレタスやサニーレタスなどの葉菜類です。年間約12tのEM（二次活性液ベース）を土壌施用、葉面散布などに使用しています。

トラストさんでは、醤油粕を用いた液肥が良い成果を出していますので紹介いたします。醤油粕は圧搾処理された醤油粕と、もろみ状になっている醤油粕がありますが、圧搾処理された醤油粕の場合は、重量比で醤油粕1に対しEM活性液4の比率で、もろみ状の醤油粕の場合は重量比で1:1の比率とし、これらを密閉容器で混合し2~4週間漬け置きます。



仕込み直後

仕込みから1週間後

あくまで感覚的な判断ですが、漬け置き2週間が過ぎたころから栄養分が液体へ抽出されてきているように感じます。

抽出できたら布で濾し液肥とします。使用する際はこの液肥

を水で100倍に希釈し葉面散布するのですが、原料由来の繊維質が多いため、布で丁寧に濾しても動力散布機のノズルは目詰まりします。

出来上がった醤油粕液肥は、フィッシュソリュブルの代用品として効果を発揮しています。フィッシュソリュブルと比較すると「肥効は早い効き目は短い」といえます。フィッシュソリュブルより低分子のアミノ酸が主成分になっていると考えられ、肥料効果の持続性に欠けるためフィッシュソリュブルより散布の作業頻度は多くなってしまいますが、醤油粕液肥の場合は嫌な臭いがないのでパートさんも苦にせず作業してくれるそうです。

トラストさんでは、連作する葉菜類やキュウリなど果菜類の追肥として、この醤油粕液肥を葉面散布しています。

三例目として徳島県阿波市で養豚を営む株式会社大幸さんを紹介いたします。大幸さんは飼育頭数1万頭で徳島県では一番の経営規模を誇ります。また自社で飼料設計と配合を行うことで徹底したコスト管理を実現している非常に珍しい養豚事業者です。養豚場は農村集落の中にあり近隣に宅地もあるため、以前は臭気の苦情もあったようですが、EMを使うようになってから苦情は一切なくなったと喜んでおられます。

EMの使用方法としては、ボカシ状に発酵した飼料をエサに配合し給仕することが主になります。この自家製EM発酵飼料についても、導入前に数多くの試作を行うなか配合を確立しました。配合飼料だけだとどうしても良質な発酵にはならないため、配合飼料8に対し米ぬか2を添加し、あとはボカシと同様に発酵させています。この発酵飼料をエサに対し1%混合し給仕しています。



大幸さんでは月間6tのEM発酵飼料が必要となりますが、秋から春にかけては徳島でも外気温では温度が足りず発酵が進みません。このように熱が足りないシーズンは、自社の堆肥場の発酵熱を利用し発酵飼料を加温しています。もちろん、堆肥に付着している菌などが発酵肥料に混入しないようにビニールシートを何重にも重ねて、さらにはブルーシートを2重にして万全を期して発酵させています。酵素風呂で作るボカシみたいな感じです。

「知多半島を拠点とした私のEM活動」

やなベエコクラブ 代表 竹内 睦治

EMに出会って19年、EMボランティア活動を通じて、関わる皆様から笑顔を戴き、健康を戴き、とても充実した楽しい毎日を過ごしています。今回は主な活動のうち、①学校でのプール清掃や環境についての出張授業、②半田運河の浄化活動、③放置ミカン園のEMによる再生についてお話をします。

① 学校関連のEM活動（プール清掃、環境授業）

コロナ禍により2021年は21校にダウンしましたが、2019年までは35校のプールにEMを投入しました。各プールには、10Lタンクを30個、合計で300L分のEMを投入、子供達や先生方も楽しんで参加しています。また、2階のプールには、発電機と活用し、ポンプに30mのホースをつないでEM投入しすることで、運搬作業を簡易化しています。

各校10Lタンク 30個で300L

休憩中の子供も応援に

プールの清掃 4年生と先生で

投入の簡易化 水中ポンプ+発電機

2階のプールにもポンプ+発電機で

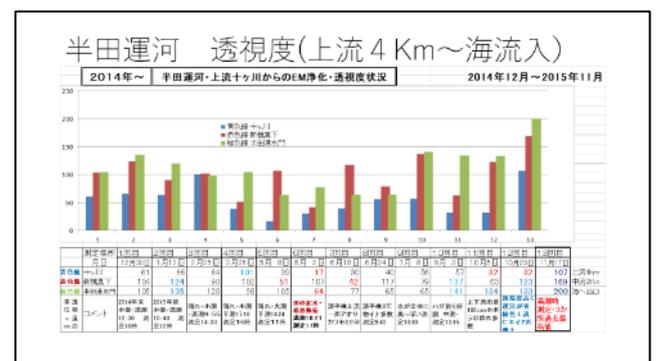
ホース 30mにして

小学校へは、環境について出張授業を実施しています。また、地域の市民活動の一環として、子供達だけでなく、大人達も楽しみながらEMダンゴを作り、河川浄化活動を展開しています。



②半田運河の浄化活動

半田運河は、小樽運河、日南運河とともに日本3大運河の一つであり、商業用に建設された人工運河です。江戸時代にミツカン酢で有名な中埜酢店が醸造酢を江戸まで海路で運搬するために浅い川を浚渫し、半田市発展の基礎を築いた象徴的な場所です。70年位前は、ハゼ釣りもでき、秋にはボラの幼魚が水面を無数に飛び跳ね、漁も行われていました。2000年頃には汚れて見るも無残な状態でした。そこで、2005年より浄化活動をスタートしました。2014年には阿久比町ポンプ場敷地内に1tタンクを設置し、本格的にEM活性液の投入を行いました。また、運河上流からも累計180tのEMを投入しました。その甲斐あり、運河の水の透視度も向上し、ハゼも釣れるようになり、多くの鳥が飛来するようになりました。



③放置ミカン園のEMによる再生

2018年、知人の紹介で5年間放置されたミカン園を引き継ぐことになりました。面積は3反で、樹齢15年程のはるみミカンを主に、温州ミカン、デコポン、八朔等が植えられています。ミカンの知識なし、農業経験なし、資金なし、寿命に限りあり、体力もなし、実行の自信なし、あるのは意欲と応援者という状況でスタートしました。

知多半島は野鳥の被害が多いことから1000mロープで結界を張り、樹の4隅に小結界を作成し、ミカンの樹には



EM活性液（5倍希釈）を散布したところ、生育も少しずつ回復しました。人を集めるためミカン園でコンサートや食事会、収穫祭を開催し、多くの参加者に楽しんで頂きました。2022年1月には、やっと美味しいはるみミカンが収穫できました。

ミカン園の運営は難しいのですが、多くの方々の協力や会費で運営をしています。これからも集まって楽しい場所、美味しく安全な食べ物を目指し、皆様の支援と共に、気力の続く限り頑張ります。知多EMミカン園の応援宜しくお願い致します！

2022年1月 はるみミカンの収穫



知多EMミカン園の応援をお願いします！

- **完全無農薬**でミカン栽培しています
- 無農薬ですので外皮も安全・マーマレードに
- 900坪の平らな場所で幼児にも安全。EM散布で気持ちの落ち着く、憩いの場所でキツキ・コジュケイも来ます。各種行事 参加可能
- **会費振込先**；知多信用金庫 本店 普通
- **No 0568387 竹内 睦治(ムツジ)宛**
- **年会費 5,000円 (4月～翌3月)**

「水産加工廃棄物を活用した持続可能な“循環型地域農業”のモデルづくり」

U-net 平野 勝洋 理事

今年度、U-netのユニバーサル・ビレッジモデルづくり事業に採択されました「水産加工場廃棄物を活用した持続可能な“循環型地域農業”」モデルづくりプロジェクトの進捗報告と成果について報告させていただきます。本プロジェクトの「目的」は三陸沿岸の陸前高田、気仙沼、南三陸、石巻に多数存在する水産加工場の浄化槽から排出される魚の粗などの水産廃棄物を、EM技術を活用することにより農業に利用可能な良質な堆肥へ再生し、ゴミ排出量を削減すると共に、安全・快適・ローコスト・ハイクオリティーで持続可能な“循環型地域農業”を普及することです。

プロジェクト1年目は以下の3つの目標を設定して取り組みました。

- ① 水産加工場からゴミとして排出される水産廃棄物量を年間8立米削減し、EM堆肥として再生する。
- ② 最新EM技術を習得するための勉強会を年2回開催する。
- ③ EM堆肥を活用する市民農園を開園すると共に、EM堆肥を利用する稲作農家を募り、循環型地域農業を普及する。（10組）

目標①の水産廃棄物のEM堆肥化については、フレコンバック24袋分の水産廃棄物を栗原市に運び、堆肥化を試みました。水産廃棄物はガチガチの塊でしたが、鶏糞、EMボカシ、EM活性液を混ぜて発酵させると悪臭もないサラサラの粉状になりました。完成したEM堆肥を外部で分析したところ窒素、リン酸が豊富な良質なボカシの様な堆肥になっていることがわかりました(目標達成)。



EM処理前の水産廃棄物



EM処理後はサラサラになって使いやすくなった

目標②の勉強会の開催については、岩手コンポストの菅原専務やEM研究機構の吉川さん、奥本さんを講師として招き、春と秋に勉強会を開催しました。最新情報を知ることによりEM技術を活用した有機農業や稲作を徹底的にやってみたいという農家さんの申し出が増えました(目標達成)。

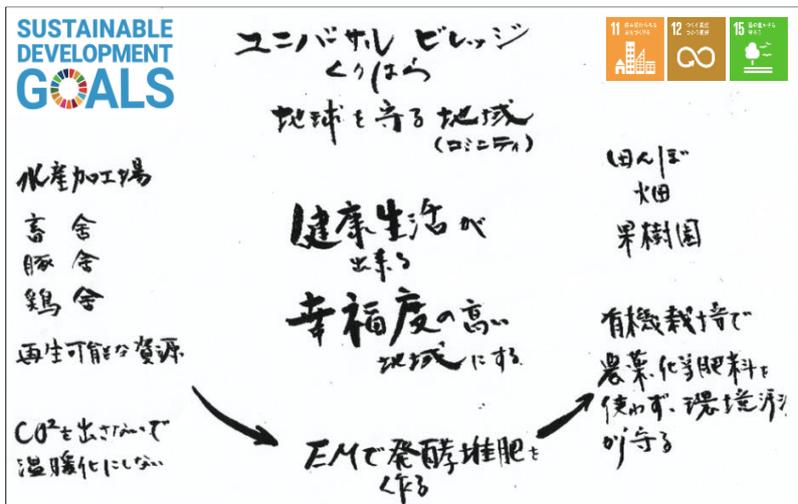
目標③の循環型地域農業を普及するについては、10名の農家さんが本プロジェクトの目的に賛同し、参加してくれました。稲作では、特にEM堆肥に加えて、反当たりEM活性液200Lを4回散布、塩の代わりに海水を1t投入した大庭さんの水田は10表のお米が収穫でき、周りの農家より収量が多く、食味もとても良くなりました。EMを導入した他の農家さんでも収量が増えたり、食味が向上しました。収穫したお米は「EM長寿の米」として販売できました(目標ほぼ達成)。現在、新年度分のお米販売の予約を受付け中ですので、ご関心のある方はご連絡下さい。



本プロジェクトでご縁ができた水産加工場の人と話してみると、浄化槽は曝気のために電気代が月100万円以上かかっているとのことでした。EMを浄化槽に入れると曝気用ポンプを電気で回さなくても良くなり、污泥発生量も減り、その結果、廃棄物処分費用も減ると比嘉先生から聞いていますので、現在、その水産加工場でEMを試験的に浄化槽で使ってもらっています。良い結果が得られれば、三陸沿岸にある多くの水産加工場でEM活用が広まり、EM処理された排水が海に入ることによって、海の汚染も減り、魚や海藻など水産資源が増えると期待しています。

現在、栗原市内では、10箇所にEM活性液を入れた200Lタンクを設置し、欲しい人が自由にEM活性液を持ち帰れる様にしています。養鶏や牛舎でもEMを活用してもらっています。

今後の計画としては、安心安全でローコスト・ハイクオリティーなEM堆肥製造の仕組みを作り、関係者や地域への配布を継続できる様にすること、製造したEM堆肥やEM活性液、EMグラビトロン炭などEMの活用を徹底した稲作(お米作り)や園芸を普及し、しっかり現場で実践される様にすることで、“ユニバーサルビレッジくりはら”の仕組みを確立してゆきます。また、EM初心者から上級者まで幅広くEMに触れ知識がつけられる様な勉強会を定期的で開催します。



“ユニバーサルビレッジくりはら”のモデル図

「北中城村植物ごみ資源化ヤードでのEM活用について」

資源化ヤードセンター長 新垣 高平

当施設は、平成25年に北中城村内のゴミの減量化と資源循環を目的として設置され、昨年の4月までは村役場住民生活課が直接業務を行っていました。しかしながら、若干処理が追いついていないという課題があり、村ではこれら「草木など、植物ごみ」を効率的に処理するシステムと、良い堆肥を製造する技術を求めて、本業務を外部委託することを決定し、一般公募されました。そして、EM研究機構は、公募者の一社としてプロポーザルを行い、その結果、採用していただき令和2年7月から業務を開始する流れとなりました。

主だった業務内容としては、村内から排出される植物資源ごみの受入と回収があり、それら集めた植物ごみのチップ化と堆肥化、腐植化など用途に合わせた処理を行っております。チップと堆肥につきましては、村役場からも販売しても良いとの許可を得て、村民の方を中心に安価で提供しております。また、次年度4月からは村内（14行政区）の区長さんへEM活性液の配布を資源化ヤードで行うことが決まっており、今後ますます村の農業の発展や環境保全に貢献してまいります。

次に実際に行っている植物ごみの処理方法についてです。

まず初めに、植物ごみを木・枝のグループと、草・落ち葉のグループの2つに分類し、その後、大きく分けて4つの処理の仕方があります。1つ目はチップパーシュレッダーという機械を用いて枝を破砕処理する方法です。破砕しチップ状に積み上げた山に10日に一回程度EMを散布します。また、EMはチップパーシュレッダーのナイフ（刃）のメンテナンスでも錆落としやコーティングとして活用しています。

処理方法の2つ目は、薪割り機やチェーンソーを使った作業です。搬入される植物ごみは当然、形状も種類も様々であり、大きい丸太の他、湾曲した木やいびつな形の枝も入ってきますので、用途に応じた機械を使ってサイズを小さくする処理をしています。小さくした木はチップパーシュレッダーでチップ化します。

処理方法の3つ目は無煙炭化器を用いて整流炭を作製します。

処理方法の4つ目は、草と落ち葉の処理になりますが、こちらも本来は堆肥の原料として使用していきたいところではありますが、所有している機械の性能上、草を投入するとどうしても詰まってしまう作業効率が悪く、処理が困難であるため、そのままの形でEMと米ぬかを使って腐植化させて畑に戻すようにしています。

堆肥の製造につきましては、チップを主原料としたバーク堆肥を作っております。副資材に泡盛廃液・米ぬか・鶏糞にEMと別途光合成細菌を追加して発酵させています。チップや堆肥は、村内の一般家庭の方々や農家さんを始め、小学校や公民館での花壇整備、桜など街路樹への追肥や美化作業等にご活用いただいております。

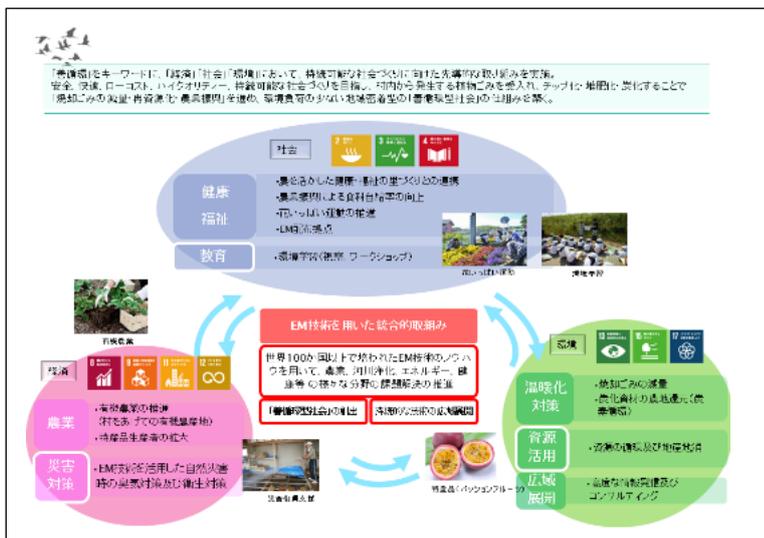


最後に資源化ヤードで北中城村役場と連携しながら取り組んでいることを2点紹介いたします。まず、1点目は企業版ふるさと納税についてです。企業版ふるさと納税とは、法人税の税額控除の軽減効果が寄付した額の最大で9割も軽減される納税制度ですが、北中城村が掲げる対象事業に「全村植物公苑づくり事業」というものが設定されており、その中に資源化ヤードの植物資源化事業が盛り込まれています。このように寄付の対象事業となる存在として運営されておりますので、北中城村の発展に微力ながら貢献できているかと思っております。

続いて、2点目はSDGsについてです。SDGsの視点における資源化ヤードの役割についてまとめた図を以下に記載します。

- 社会面では、「農を活かした健康福祉の街づくり」や教育機関と連携した就業体験および視察の受入を行っています。
- 環境面では、焼却ゴミ削減による温暖化対策、堆肥製造で資源の循環を実現しています。
- 経済面では、堆肥やEM供給による有機農業の推進、そして、EMの得意とする消息を始めとした災害対策などを行います。

以上、これらの分野を中心に行政の視野をもちつつも、積極的にEM技術を活用しながら、資源化ヤードが今後より一層地域に役立つ場所として機能していけるように取り組んでいきたいと考えています。



「私が普段行っているEM生活とEM普及活動について」

U-net 吉彌 信子 理事

普段から、皆さんに若くて元気だと言っています。私自身、その秘訣は、自分を年寄りと思っていないことですか、EMの活動を通して若い友達がたくさんいる事だと思います。

私は、EMの活動を15年ほど行っております。「京都EM love」という名前で京都を拠点として活動を行っています。最初にEMを知った時からEMは愛だと感じたので、ラブという名前にしています。これまでずっとEMを使ってきましたが、きちんと効果がでてくれることが嬉しいと私は感じています。EMについてお伝えした皆様には、こんなに良いものがどうして広がらないのですかとよくご質問をいただきますが、環境浄化にも愛が必要で、今のお金儲けのために動く世の中の仕組みが、EMの価値観に追いついていないのですよとお話ししています。



EMの活動では、水の浄化活動をいくつか行ってきました。例えば、二条城のお堀の浄化、水フォーラム開催を機会にしまして国立国際会議場の池の浄化、これは2年半行いました。また、大原の観光地である呂川は汚い川でしたが、地元の婦人会にて15年間、EMマンデーと称して月曜日に活性液を投入する活動を行ってきました。浄化活動を行った場所はEMを使ってだいぶきれいになり、EMで浄化中という看板を掲げています。

また、学校のプール清掃にEMを活用すると、こびりついた汚れがたった2週間ほどで浮いてきて、モップで簡単に落ちてしまいます。薬剤を使わないので、プールの脇にモリアオガエルの巣があったり、サワガニ35匹も出てくるなど様々な生き物が集ってくる環境にもなります。

水の浄化をするうえで重要なのは、諦めない事です。水には層があり、上の層から順番に浄化されていきますので、EMを使っても一回ではきれいになりません。国際会議場の池の浄化も2年半の間、何度も汚れが浮き上がってきました。しかし、諦めずに何回もEMを使い続け、繰り返していくことがとても大事だと比嘉先生にもご指導いただき、諦めずにEM投入を続けることで浄化が進んでいきました。大腸菌の数値や、汚いものが出てきて浄化するという流れを繰り返し、どんどんきれいになっていく経験を何度もしました。

水の浄化以外にも、20年間、生ごみ発酵肥料を使った畑づくりを行ってきましたが、私は微生物たちが環境をきれいにしたとしても、自分たちがやりました！と威張ったりしないところがとても好きです。そういったところに私も見習って、微生物が活動しやすい場を作るお手伝いをしているんだよという思いで活動を行っていきたいです。そうする事で、環境だけでなく、自分自身の人間性も向上していくと感じています。

最近では、若いお母さんが勉強したいとEMのお話し会に呼んでくださいます。これをきっかけに、参加いただいた方たちも日常生活を見直す機会が増えているように思います。新型コロナの影響もありましたが、あちこちから講習会の依頼があり、忙しくさせていただいています。必要としてくださる方がいることも、元気でいられる秘訣なのかなと思います。

EM活動を通して、私は何回か面白い経験もさせてもらっています。京都は外国からも人気の観光地ですので、ある時はお土産屋さんから電話があり、ベルギーから来られたお客様がEMの化粧品を買いたいという依頼がありましたし、ある時はリッツカールトンホテルから電話がありフランスから来られたお客様からこちらEMの化粧品が欲しいという依頼も受けました。こうしたEMを通じた出会いも若々しく元気でいられる秘訣だと思っています。

私は、これまでのEM活動を通して、色々な方と友達になれましたし、朝晩EM・X GOLD飲んでますし、シャンプーの後にEM活性液でリンスしたり、私自身がEMまみれになって、生活する事で、体の年齢は地球上で決められたとおりに積み重なっていますが、魂の年齢はいつまでも若くいられるので、これからも元気に活動を続けていきたいと思っています。

★令和4年度第23回通常総会出席者対象特別講演会ダイジェスト版 動画視聴のご案内（会員限定）

3月4日の通常総会出席者対象特別講演会の様子をまとめたダイジェスト版の動画を配信期間中にインターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、好きな時間に視聴できます。

【配信期間】 4月22日(金)の朝9時～翌日4月25日(月)の夜9時まで

視聴をご希望される会員の方は **4月18日(月)**までにお名前を明記の上、「特別講演会ダイジェスト版視聴希望」と記載して事務局へメール(info@unet.or.jp)にてご連絡をください。
視聴用URLは4月21日(木)に事務局よりメールにてお知らせいたします。

事務局からのお知らせ

U-net 令和4年第2回 EM技術セミナー開催のお知らせ

EM技術セミナーを5月13日(金)に開催します。これまでの「比嘉理事長講演会」を、「EM技術セミナー」へ名称を変更いたしました。

EM技術セミナーでは、最初に複数の方に発表を頂き、発表の後に質疑応答の時間を設けて、最後に比嘉理事長に講評及び最新情報などをお話して頂く内容となります。

講演会の概要、プログラム、参加方法については以下をご参照ください。

【日時】 2022年5月13日(金) 14:00～16:10pm (zoom 開催)

【対象者】 U-net会員の方

【参加費】 無料 (グループ会員、法人会員の方は3名まで参加費無料です。)

【開催プログラム】

1350-1400pm ご案内

1400-1430pm 発表者調整中

1430-1500pm 発表者調整中

1500-1530pm 質疑応答

1530-1600pm 比嘉理事長による講評及び講話

U-net 開催EM技術セミナーお申込み方法変更のお知らせ

これまでより簡単に、U-net 開催EM技術セミナーへのお申込みが出来るようになりました。

これまでの申し込み手順

事務局へ申込

ウェビナー登録

当日視聴

変更後の申し込み手順

U-netのHPから
参加登録(ウェビナー登録)

当日視聴

5月13日(金)に開催されますEM技術セミナーへの参加を希望される方は
令和4年4月1日(金)から令和4年5月12日(木)までに地球環境共生ネットワーク
ホームページへアクセス頂き、トップページのインフォメーション欄に掲載されています
「第2回 EM技術セミナー申し込み」というお知らせから参加登録(ウェビナー登録)を
お願いいたします。登録方法や参加方法については、ホームページをご確認ください。

※特別講演会はU-net会員様限定の配信となっております。

ウェビナー登録にご記入頂くお名前と会員様のお名前が違う場合、参加登録が出来ない
場合がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は、氏名に
加えて、所属するグループ名または法人名を記載いただきますようお願い申し上げます。

※U-netの会員であるか不明な場合やウェビナー登録についてご不明な点がございましたら、U-net事務局へメール(info@unet.or.jp)またはお電話(03-6450-1194)にてお問合せ頂きますようお願い申し上げます。

★あなたが聴きたいテーマをお知らせください。

EM技術は世界各国で農業、畜産、水産、環境回復、資源リサイクル、建築、健康、エネルギーなどで活用されています。つきましては、あなたが本セミナーで聴きたいテーマがあれば、U-net事務局へお知らせください。テーマを選ぶ際に参考にさせていただきます。

令和4年度第23回通常総会開催終了報告

去る、令和4年3月4日、第23回通常総会がWEB会議(zoom)で開催されました。正会員の皆様には、zoomでの出席、書面議決書や委任状のご提出にご協力をいただき、第23回通常総会が滞りなく終了できましたこと、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

4月からの事務局の運営について

3月末で長年に渡り本会の事務局業務に携わって頂いた会田さんがご退職されました。新しい事務局体制が整うまでは、ボランティア職員の齋藤(さいとう)または新谷(しんたに)が、月、水、金に交代で事務所にて電話での問い合わせに対応いたします。しかしながら、事務所に出られない時もありますので、その時は留守番電話にご伝言を残し頂くか、メールでお問い合わせください。事務局への連絡に一番確実なのはメール(info@unet.or.jp)です。メールは毎日事務局で確認しております。会員の皆様にはご不便をお掛けしますが、ご理解、ご協力よろしく願いいたします。

書籍の販売について

比嘉理事長が必読書として講演会等でご紹介されている書籍「愛と微生物のすべて」と「日本の真髓」を会員の方に送料無料で販売します。まだ、お持ちでない方はこの機会にご購入ください。すでにお持ちの方は、ご友人、知人への贈り物、紹介用にご活用ください。お得な会員価格は以下の通りです。

- | | | | |
|--------------|-----------|------|---------------|
| ・『愛と微生物のすべて』 | ヒカルランド発行 | 会員価格 | 1,800円(消費税込み) |
| ・『日本の真髓』 | 文芸アカデミー発行 | 会員価格 | 1,500円(消費税込み) |

なお、事務局の在庫がなくなり次第、販売は終了いたしますのでご了承下さい。購入ご希望の方は、メール又はファックスにてU-net事務局までご連絡ください。

【連絡先】 Email : info@unet.or.jp Fax : 03-6450-1195